

震災の記録とこれまでの歩み



平成23年3月11日
14時46分

東北地方太平洋沖地震 発生

凄まじい揺れが東日本を襲った。
郡山市でも震度6弱を記録。



捜索活動について協議

本庁舎にも大きな被害が発生。
展望台がつぶれ、救急隊による確認作業を行う。
(当日は確認されなかったが、4月19日死者1名を確認)
地震発生直後、防災拠点として位置づけた開成山野球場内に災害対策本部を設置し、24時間体制で災害応急対応を開始。3月11日15時35分に第1回災害対策本部会議を開催。
本部長(市長)より、市民の安全確保を最優先とし、併せて被害状況の調査、避難所開設などの迅速な対応を指示。
地震発生直後から多くの避難者。最大で、市内105か所に10,013名が避難。全力で応急対応を進め、6月30日には全ての避難所を閉鎖。



本庁舎前広場へ一時避難し、市民及び職員の状況を確認

3月11日
15時35分



第1回災害対策本部会議(開成山野球場)

開成山野球場に避難した市民



被害状況の把握

インフラの復旧



被害状況を掲示して情報の共有化を図る



1階部分がつぶれたビル(全員無事避難)



各所で漏水が発生



24時間体制での復旧工事



市内各所で道路陥没、亀裂等多数発生



3月13日 市長記者会見



給水を求める市民の列(開成山野球場前)



多数の給水活動応援

市民への呼びかけ

市内各所で被害発生。次々と寄せられる被害報告に迅速に対応。3月13日の市長記者会見では、市民の皆さんに対し、冷静な行動と地域における災害対策に感謝を伝えるとともに、引き続きの対応をお願いした。

地震直後から大規模断水発生。私たちの生命維持に欠かすことのできない飲料水、そして医療に欠かせない水の確保のため、24時間体制で復旧・給水活動を実施。全国各自治体からの給水活動応援は、市民にとって力強いものとなった。

県外からの応援

原子力発電所事故への対応

3月11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日

「廃炉」を前提としたアメリカ合衆国からの支援を国・東京電力が断ったことに対し、原市長が、3月19日の記者会見で強く抗議。「廃炉」を前提として事故の早期沈静化を図るよう、海江田経済産業大臣(当時)に直接要請するとともに、報道機関の協力により広く世界に実情を訴えた。

4月21日、原市長が、菅内閣総理大臣(当時)に復興対策や原子力災害への対応などについて直接要望。



3月19日 記者会見



総合体育館でのスクリーニング

地震及び津波により、福島第一原子力発電所が被災。3月11日、政府は原子力緊急事態を宣言。3月12日、福島第一原発1号機で水素爆発。3月14日には同3号機で水素爆発など、緊迫した状況が続く。

そのような中、本市にも県内各地から多くの避難者が来たことから、市独自の判断で、避難者の健康管理のため、スクリーニングを実施。

また、県内各地からの避難者に対し、本市でも支援を行った。



県内各地から多くの避難者(ビッグパレット)



県内各地からの避難者に対し、本市でも支援実施



菅内閣総理大臣(当時)へ要望

アドバイス



写真上／平成23年3月20日
根本匠氏を本市防災対策アドバイザーに委嘱。様々な助言をいただく。

写真中／平成23年3月22日
増子輝彦参議院議員が本市災害対策本部を訪れ、国の動きについて情報提供。

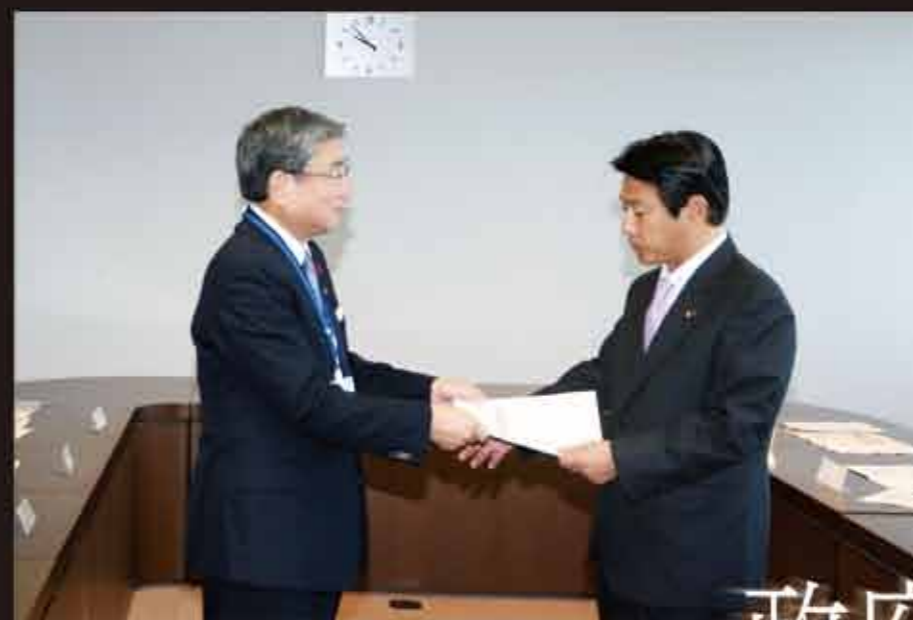
写真下／平成23年3月26日
森雅子参議院議員が本市災害対策本部を訪れ、原市長が、本市の状況について説明。



写真上／平成23年10月18日
市内幼稚園を訪問した野田佳彦総理大臣(当時)に対し、東京電力第一原子力発電所事故に係る除染活動に対する財源措置や農作物等の食品の安全の確保について要望。

写真中／平成24年7月23日
平野達男復興大臣(当時)が本市を訪れ原発事故で被災者の避難先での生活が長期化する中、避難者支援の取り組みなどについて意見交換を実施。平野大臣(当時)へ復興交付金制度の拡充、除染対策や健康管理に係る財政措置などを要望。

写真下／平成24年10月24日
樽床伸二総務大臣(当時)が本市を訪問し、原発事故に伴う災害復興住宅の整備等について意見交換を実施。樽床大臣(当時)へ「原子力災害に係る各種窓口の一元化」、「放射線医療に関する拠点施設の誘致・整備」などを要望。



政府関係者

子どもたちを守るために

子どもたちを守るという大きな使命を果たすため、福島県建設業協会郡山支部・こおりやま建設協会の協力のもと、4月27日、他に先駆けて小中学校校庭や保育所所庭の表土除去を開始。

ふるさと郡山の再生に向け、市民の皆さんとともに、各種施策を進めています。

今後も、未来を担う子どもたち、そして市民の皆さんの安全・安心のため、全力で取り組みます。



小学校校庭表土除去

全力で



市長が「第7回マニフェスト大賞」において「震災復興支援・防災対策優秀賞」を受章。(平成24年11月2日 授賞式)

1. 東日本大震災について

1. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の概要

- (1)地震発生時刻:平成23年3月11日(金) 14時46分
- (2)震源:三陸沖(宮城県牡鹿半島の東南東約130km付近)深さ24km
- (3)地震の規模:マグニチュード9.0
- (4)震度:郡山市震度6弱(最大震度7:宮城県栗原市)

この地震は、東北から関東にかけての太平洋沖合で岩盤が大きくずれたことにより発生したものとされています。ずれた範囲は、南北約450km、東西約200kmにも及びました。最大震度7の強い揺れと津波により多数の死者・行方不明者を出すなど、東北・関東地方を中心とする広い範囲で、甚大な被害をもたらしました。本市でも、震度6弱の激しく長い揺れに襲われ、市内各地で建物や塀の倒壊、道路の亀裂や断水などの被害が発生しました。



2. 東京電力福島第一原子力発電所事故の概要

【原子力発電所事故の経過】

平成23年

- ・3月11日 政府は原子力災害対策特措法に基づき原子力緊急事態を宣言
- ・3月12日 東京電力福島第一原子力発電所1号機で水素爆発
- ・3月13日 同3号機の燃料棒が露出
- ・3月14日 同3号機で水素爆発、2号機で燃料棒が全露出
- ・3月15日 同2号機格納容器の圧力抑制プール付近で爆発、同4号機で水素爆発

この事故により、本市にも放射性物質が飛散し、現在も本市の経済や市民生活に多大な影響を及ぼしています。